

人と魚と海のネットワーク
 香川県漁連ホームページ
<http://seaclub.power.co.jp/>
 E-mail:gyoren@power.co.jp



JF 高松市北浜町 8 - 25
 TEL 087-825-0350
JF 香川漁連 FAX 087-851-0699

平成 14 年春から「さわら瀬戸内海系群資源回復計画」が始まった。関係 11 府県の協力によりサワラの資源回復を図ろうとするものであるが、その中で、サワラの種苗生産は、早急に資源を増加させるための手法として重要視されている。また、今年から、瀬戸内海西部系群の種苗生産も、愛媛県の(社)日本栽培漁業協会伯方島事業場により実施されることとなった。三豊地区は、この系群に含まれる。

サワラの採卵作業は、5月8～9日夜、漁業指導船ことぶきに、屋島事業場、水産課、水産試験場、県漁連の職員が乗り組み、「香川県さわら流しさし網協議会」の協力を得て行った。当日は、水産庁瀬戸内海漁業調整事務所から小林資源増殖係長が見学を訪れるなど、国や他府県からも期待されているところである。

今年の受精卵の目標数量は 100 万粒であったが、今回は 60 万 4 千粒の確保に留まった。しかしながら、ふ化率が 82.3% と非常に良かったことから、種苗生産には十分な受精卵が得られた(表 1)。

5月12日午後にふ化した後も順調で、ふ化仔魚は 44 万尾が屋島事業場で飼育されている。

今年もサワラ種苗生産は順調！

目標生産尾数は 11 万 5 千尾で、約 25 日の生産期間を経て、6月5～7日頃に、全長約 3cm で各中間育成場所へ配布される。今年はずべての種苗が中間育成される予定である。

中間育成は、宇多津漁協(育成場所は与島漁協)女木島漁協、東讃鯖流し網組合(さぬき市)小田で、漁業者自ら実施する他、県はさぬき市小田の大規模中間育成場での中間育成を実施する。また、岡山県の日生町漁協でも行われることとなっている。中間育成期間は約 14 日で全長約 10cm、全体で 5 万 6 千尾の放流を目標としている(表 2)。

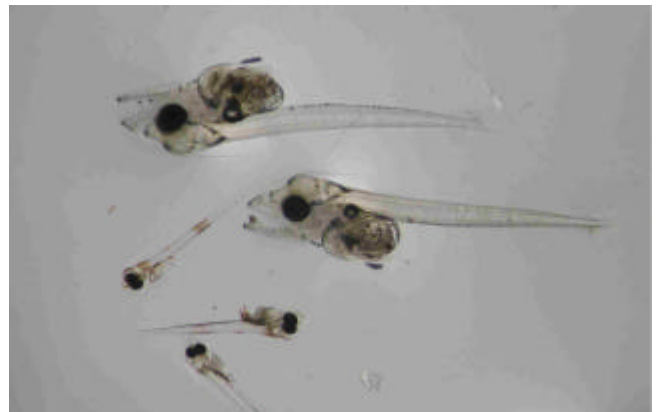
今年では中間育成を是非とも成功させる必要がある。資源回復計画により、漁業者には秋漁の休漁や網目の拡大が求められていることから、早期にサワラ資源の増加を図り、漁業経営に与える影響を軽減しなければならない。

平成 14 年のサワラ春漁は、今のところ昨年を大幅に上回る漁獲が報告されている(図 1)。これまでの漁業者の血のにじむような努力が実を結ぼうとしている。

香川県農林水産部水産課 漁業・資源管理グループ 牧野弘靖



採精



仔魚 6 日目

日裁協屋島事業場提供

表 1 平成 14 年サワラ採卵結果

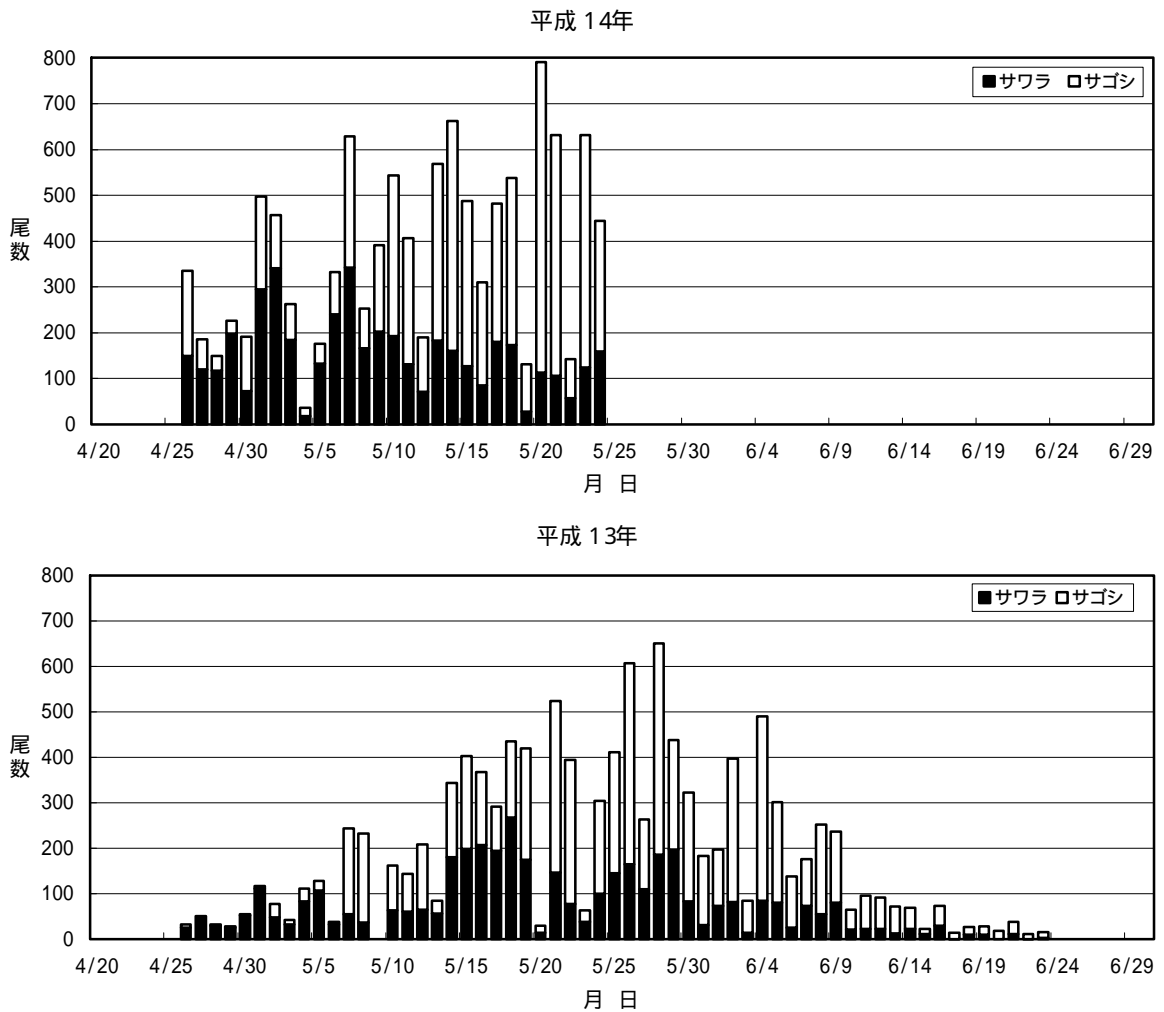
| | 総採卵数 (万粒) | 沈下卵数 (万粒) | 浮上卵数 (万粒) | 受精卵数 (万粒) | 受精率 (%) |
|---|--------------|--------------|--------------|--------------|------------|
| 1 | 19.8 | 0.0 | 19.8 | 17.1 | 86.4 |
| 2 | 27.0 | 3.8 | 23.2 | 21.7 | 93.5 |
| 3 | 25.6 | 0.0 | 25.6 | 21.6 | 84.4 |
| | 72.4 | 3.8 | 68.6 | 60.4 | 88.0 |

(社)日本栽培漁業協会屋島事業場資料より

表 2

| さわら瀬戸内海東部系群の中間育成放流計画 | | | | |
|----------------------|------|--------------|--------|-------|
| 放流サイズ | 配布先 | 中間育成 | 収容尾数 | 放流予定 |
| 100mm | 東讃地区 | 東讃鯖流し網組合(小田) | 1.5万尾 | 0.7万尾 |
| 100mm | 高松地区 | 女木島漁協 | 1.5万尾 | 0.7万尾 |
| 100mm | 中讃地区 | 宇多津漁協(与島漁協) | 1.0万尾 | 0.5万尾 |
| 100mm | 東讃地区 | 香川県水産課(小田) | 5.0万尾 | 2.5万尾 |
| 100mm | 香川県 | 香川県栽培漁業センター | 2.0万尾 | 1.0万尾 |
| 100mm | 岡山県 | 日生町漁協 | 0.5万尾 | 0.2万尾 |
| 計 | | | 11.5万尾 | 5.6万尾 |

図 1 香川県魚市場(株)へのさわら・サゴシの入荷状況



タケノコメバルの種苗量産化に成功!

香川県水産試験場では、平成10年度からタケノコメバルの種苗生産技術の開発を続けていたが、このたび6cmの種苗、約7万尾の生産に成功した。

これまで二度、種苗の生産は経験していたが、生残率が数%と低く、奇形の魚も多かったことから生産技術の確立と呼べる状況ではなかった。本年の種苗生産では生残率が全体で25.9%で奇形は少なく、良好な結果が得られた。

生産尾数7万尾のうち4万尾は、(社)香川県水産振興協会を通じて2万尾ずつ直島、庵治で試験養殖に使用されることになった。それぞれ5月10日、17日には現地に運ばれ、今後は成長、給餌量、斃死などの飼育データが記録され、養殖方法のマニュアル作りに生かされることとなっている。また、2年後の春には200g程度に成長して出荷される見通しである。今後の課題としては、タケノコメバル

を知る人が少ないため、認知度を高めるとともに、高値を付ける販売を工夫しなければならないことであろう。販売こそがこの魚の将来を決めるものと言えよう。

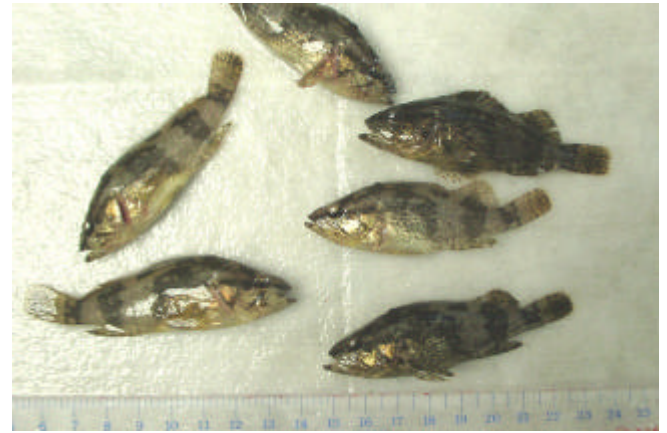
なお、残り 3 万尾は、放流やイベント、親魚候補の飼育に使用されることとなっている。

この魚は、昭和 40 年頃までは香川県の海でごく普通に見られる魚であった。年輩の人にはなじみ深い魚であり、“大きく、美味しい”と総じて評価も高い。しかし、今ではほとんど見かけることが無い幻の魚になっている。親魚の収集では小豆島が最も多く漁獲された場所であるが、それでも一尾ずつ漁業者の協力を得て集めなければならなかった。なぜ激減したのか、その原因は究明されていないものの、今後、放流事業を継続することによって、かつての

姿を復活させたいと考えている。

親魚収集などタケノコメバルの生産に力を貸してくれた方々に、紙面を借りてお礼申し上げます。

香川県水産試験場 増養殖担当 棚野元秀



ふれあい「建干網」2002 inカンオンジ開催

江戸時代からの伝統漁法を現代によみがえら
せて、観音寺市の漁業振興と活性化を図ることを
目的に実施した「ふれあい建干網2002 in
カンオンジ」(同実行委員会開催)が、5月4日、
同市の財田川河口域で開催された。

当日は、約4,000人の参加のもと、干潮で
水位の下がった川に入り、歓声をあげて県魚の
ハマチをはじめ、タイ、クロダイ、クロギなど
の魚を追いかけた。



魚を追いかける参加者

この建干網は、満潮時に約150mの川幅を
仕切るように網を張り、干潮時に逃げ場を失っ
た魚を捕る漁法。

潮の引いた午前10時30分頃、川の中洲で待機
していた参加者は一斉に魚を追いかけて、ザルを手に
した家族連れらは、「あっちへ行ったぞ」「いやこっ
ちだ」と声を掛け合い、水しぶきをあげていた。

全身ずぶねれになりながら、全長50cmほどのハマ
チやタイなどを捕まえるたびに大歓声をあげていた。

は
ね
る
魚
の
感
触
に
歓
声
・
約
四
千
人
が
参
加

一方、浅瀬に設けたハマグリコーナーでは、ステ
ッカーを貼ったハマグリを堀り当てると、30cm級
のタイやチヌをプレゼントされ川辺では、漁協婦人
部によるお魚市コーナーが開かれ、イダコの天ぷ
らをはじめボイルエビなどの販売に行列ができ、参
加者は終日、豊かな海の恵を満喫していた。

主な行事予定(6/1~6/30)

- 6月 3日(月) 平成14年度漁連第1回臨時総会
- 6月 4日(火) 信漁連監事会
- 6月 6日(木) 信漁連理事会
- 6月 7日(金) 海苔研総会
- 6月11日(火) 漁船保険組合理事会
- 6月13日(木) (社)水産振興協会理事会
- 6月18日(火) 共済組合通常総会
- 6月20日(木) 共水連総会
- 6月24日(月) 漁船保険組合通常総代会
- 6月26日(水) 信漁連通常総会
遊漁船業協会通常総会
- 6月27日(木) 漁連通常総会
(社)水産振興協会通常総会